

翔

2012

February

No.214

百万石蝶談会



金沢市土清水でメスグロヒョウモンのメスを目撃

浅野直樹

金沢市周辺では観察記録の少ないメスグロヒョウモンを金沢市土清水で目撃したので報告する。

2011年8月5日の朝6時頃、土清水の自宅庭で草むしりをしていたところ、丸みを帯びた大型のイチモンジチョウのようなチョウがフワリフワリと飛んできてしばらく旋回していたので良く観察したところ、メスグロヒョウモンのメスであることを確認した。しばらく旋回していたので捕虫網を取りに行き行って戻ってきたが、その姿はすでに消えていた。

2011年8月5日 石川県金沢市土清水 メスグロヒョウモン 1♀目撃 浅野直樹

《あさの なおき 〒920-0955 金沢市土清水1-95》

白山トンビ岩でコエゾゼミの声を聞く

大宮正太郎

コエゾゼミ *Lyristes bihamatus* は、石川県でこれまで7月下旬から8月にかけて観察されている（松井、2010）。筆者は、白山の南竜ヶ馬場から室堂に向かうトンビ岩コースのトンビ岩周辺で、9月に鳴き声を聞いたので報告する。

2011年9月8日 石川県白山市白山トンビ岩 (alt. 2300m) コエゾゼミ 声 大宮正太郎

なお、同年9月15日に再び同じコースをたどった時には、鳴き声は聞けなかった。

《参考文献》

松井正人（2010）石川県内のゼミの初鳴きと遅鳴き．翔（203）：3-4.

《おおみや しょうたろう 〒920-1302 金沢市末町21-26-3 ブランシェセブン107号》

表紙のむしーオオチャバネセセリー

昔からセセリは好きなグループで、見つけると、しゃがみ込んで種名を確かめたくなり、何種か飛び回っていると嬉しくなる。近年、本種の観察報告が少なく、全国的にも減少傾向に有ると聞いているが、セセリはマイナーなグループで、観察する人が元々少ない上に、今は、虫を観察する人そのものが絶滅危惧種と言われるほど減っているので、チョウではなく観察報告が減ってると思いたい。 松井正人

2010年春季東北地方採集（観察）報告

指 田 春 喜

5月の連休は天候に恵まれるらしいとの予報を聞き、急ぎょ出かけた次第である。当然、宿は確保してない。カミサンに「弘前城の桜が満開らしい」、「直前になると、宿のキャンセルが案外出るらしい」などとふれこみ、前日の4月30日の夕食後に出発した。前日までにコーヒーとインスタント・ラーメンなどの標準装備(?)品の購入・調達を頼んでおいたのだが、衣類以外の野宿グッズは、クリア・ケースと段ボール箱に収納されており、1時間で準備完了。問題は「どこで何を採集し、その晩どこに泊まるか」である。なるべく午前中は採集時間に充てるとなると、初日は新潟でのギフチョウしかなく、以下の日程に落ち着いた。

■新潟県関川村大石ダム周辺立烏帽子林道 (alt. ca. 400 m) 2010年5月1日

ギフチョウ 3♂、 スギタニルリシジミ 1♂1♀

10年ほど前までの「ギフチョウ集め」で新潟・山形の両県では比較的丹念に採集しており、未採集地点(市・町・村単位)での適当な候補地があまりなく、前夜車中で仮眠できる場所(主に「道の駅」)があるとなると、当地ぐらいしか思いつかなかった。

大石川ダム上流への川沿いの道に入ってみたが、4月中旬以降の全国的な低温と天候不順で当地においても春は例年に比べ、10日以上遅れである。周辺の桜の蕾はまだ硬い。おまけに風が強く、雲の流れも速く、太陽は直ぐに曇ってしまう。環境は極めて良さそうであり、時期・天候次第では多数が採集できそうであったが、やや時期が早いと思われ、低標高地域の方がまだ日差しがありそうであり、以下に転戦。

今晚のねぐらが確保できてなかったが、昼食時に以下の宿に電話すると、あっさり山形県東根温泉に確保でき、カミサンのご機嫌やや上向く。

■新潟県関川村上野新周辺上の山林道 (alt. ca. 180 m) 2010年5月1日

ギフチョウ 3♂1♀

113号に戻り、荒川を渡り、当地に入ってみた。桜も満開を過ぎ、先より確実に春の到来は早かった。里山の雑木林の中に行く小道は、ギフには絶好のポイントであったが、♂の汚損個体が多かった。県境の向こう(東側)は山形県であり、最初のこの「ギフチョウ東北詣で」(1990年)では、小国でいくらか採っていることもあり、いまひとつ気が入らない。予報に反して、天気はそれほどには良くなく、前夜の寝不足もあり、早々に納竿。

113号で南陽市に出て、13号を北上、山形市、天童市を經由して、午後4時半に投宿。昔ながらの旅館(「最上屋」、1泊2食、8500円)であるが、料理は質・量ともに申し分なし。

■山形県東根市白水川ダム周辺 (alt. ca. 400 m) 2010年5月2日

ヒメギフチョウ 3♂9♀、 スギタニルリシジミ 1♂、 ルリシジミ 1♂、
コツバメ 1♂

前夜、早く布団に入ったのと天気が気になり、午前5時に目が覚める。やや熱めの朝風呂の後の朝飯は旨かった。採集ポイントが把握できている訳ではなく、「13号の東側にヒメギフの産地は多い」と、どこかで読んだ記事と「泉郷」なる記録を頼りに環境を物色。泉郷の集落周辺では、適当な場所を見つけられず、おまけにこの「泉郷」なる地名があちらこちらに何箇所もあり、「ヒメギフが採れる“泉郷”とは、いったいどこなんだ。」20年前ならどこの“泉郷”でもよかったのかもしれないが、今はどこの“泉郷”も民家の庭先であった。

白水川ダムのさらに上流を「ムクロ沢」に入るが、すぐに道脇に積雪となり、木々の芽は全く吹いていない。ダム周辺の桜も未だ咲いてない。ダムから流れ出る川と道路との間を並行する1キロほどの小道があった。この小道をカミサンに任せて、当方は川の向こう側の斜面に入り込んだ。短時間の割には、ともにそここの数が採れ、上記の成果。朝食を旅館でしっかりと食べたせいか、昼食はあんパン1つをかじっただけであった。

■山形県大石田町次年子 (alt. ca. 400 m) 2010年5月2日

ヒメギフチョウ 1♀ (目撃)

「大石田町川前」はギフとの混生地であり、採集がうるさいらしい(3-40年前の話?)。それでも無用のトラブルは避けるに越したことはない。13号から36号に入り、「次年子」集落の裏山に取りつくが、午後2時頃から風が出て曇ってきた。集落はずれの家の庭先(道路わき)を力なく飛翔する個体が見られた。集落裏山の環境は悪くなく、天候が良ければ採れるのは確実に思われた。しかしながら、町の条例で採集禁止とも聞くので、ここはあっさりと通過するだけにした。13号で尾花沢市に出て、347号より古川ICで東北自動車道に乗り、盛岡に出た。やや薄暗くなりかけた頃に着いた46号の道の駅「雫石あねっこ」は、ずいぶん大きく、100台以上の車中泊のクルマでいっぱいであった。併設のレストランにて、前沢牛のステーキ(¥2,800)で晩飯。連休中であり、風呂はかなり混んではいたが、それ以外は快適であった。午後10時過ぎ、隣の臨時の駐車場になっていた施設(名前は忘れた)の玄関下で寝袋に入った。

■岩手県盛岡市繫(つなぎ)温泉 (alt. ca. 400 m) 2010年5月3日

ヒメギフチョウ 1♂1♀、 スギタニルリシジミ 6♂1♀、 ルリシジミ 1♂、
ルリタテハ 1頭、 シータテハ 2頭

コーヒーとパンの簡単な朝食後、直ぐに出発。当地はもちろん初めてである。過去の採集記録だけを頼りに当地に入ってみた。最初に温泉のはずれから山に向かって右はじの沢

沿いの小路に入山。午前9時前より1時間半ほどの間に合計で4頭を目撃、2頭を得た。あまり棲息密度が濃くなさそうであり、その飛翔は思いのほか早い。もう一つの沢に転戦した入口で地元の年配の採集者ふたりに会う。最近の当地周辺および今春の情報などを得た。どうもあまり芳しくなさそうであり、以下に転戦。

■岩手県雫石市鶯宿（おうしゅく）温泉奥南畑周辺（alt. ca. 400 m）2010年5月3日
ヒメギフチョウ 4♂2♀、 スギタニルリシジミ 1♂

当地は繫温泉からクルマで30分ほどの移動である。温泉宿がある場所の中は道が細いが、その奥からさらに舗装道路が延びている。直ぐにカタクリなどが咲く場所が目につくが、その先2-3キロのところ左に入る沢沿いの山道（作業道）があった。長靴にはき替え、歩きはじめて間もなく、1♀をネット。林業の作業者7-8人が昼休み中であり、その周辺が杉の伐採地（2-3年前に伐採）であり、ヒメギフのポイントになっていた。斜面に登ることはできるが、斜面の勾配がきつく、身動きができないので、下で待つことにした。10分に1頭ぐらいの割合で降りてくる。当方が待つところまで降りてこない個体もあり、足場が悪く、振り逃したり、ネット・チャンスがないこともある。短い時間ではあったが、楽しく採集できた。午後2時半くらいから曇ってしまったのは残念であった。

作業中の人から聞いた話では、とにかくクマが多いところであるから気をつけろとのことであった。彼らも仕事に出くわすこともたびたびあり、さらに帰宅したら留守の家に入り込んでいるクマにびっくりという話も特にニュースならないとのことであった。

46号途中で「盛岡冷麺」で遅い昼食後、東北自動車道をさらに北上、「碓ヶ関（いかりがせき）」で高速を降り、7号の道の駅「碓ヶ関」に投宿（?）。当地も入浴ができる。一昨日、小国の道の駅でマップを購入（¥200）し、下調べを行っておいた。浴槽しかないごく普通の「銭湯」であるが、¥300は安い。併設のレストランが予定より1時間も早く閉めてしまったのは、予定外であったが、5分ほど離れたところのドライブ・イン（最近はあまりこういう言い方をしないが、この表現がピッタリの店であったので、敢えてこの言い方にした）でかろうじて晩飯にありつけた。

■青森県平川市志賀坊森林公園（矢捨山山麓、alt. ca. 400 m）2010年5月4日

前夜は雨になりそうであったが、外で寝られそうな場所を確保できず、やむなく自炊用具や食料品を入れてあるクリア・ケースを車外に出し、クルマの中で寝るように中を整えるとこれが案外快適であった。シートの隙間に衣類や洗濯ものなどを入れると足も沈まずに真っ直ぐに伸ばせる。「これからこうしよう！」との当方の言に「一人の方がもっとゆったりできるのに」とはカミサンの返事であった。夜半、予報通り雨が降ったが、明け方には止み、天気は良さそうである。朝食用の準備が何もなく、コーヒーの後は、非常食のラーメンとなった。

25年前の「青森の蝶」を頼りに「矢捨山」を聞き周るが、地元でも知っている人は少ない。散々聞き周り、現在の「志賀坊森林公園」であることが判明。15年ほど前の台風で被害にあい、整備の後、このような名称になっただけ（前出「青森の蝶」にこの名はない）。見るからに環境は良く、ウスバサイシンもアチコチに散見できたが、結果は見かけ倒しであった。既にいなくなってしまうか、数を減じたか。午前10時過ぎに県内の中年女性数人の自然愛好者から声をかけられた。ヒメギフ、ウスバサイシンなどの言葉も正確であり、まったく知識のないハイカーとは違いそうなので、少し立ち話にお付き合い。ここでは観てないと言う。先週「浅虫温泉の谷地山で2頭観たと言う」おまけに「自然公園散策路の方はダメ」とも付け加える。これらの場所がどこであるのかは不明であるが、本州のヒメギフの北限が浅虫温泉であることは間違いない。*1「矢捨山」近辺に記録は点々とあり、当時の記録では「矢捨山周辺が一番密度が濃い」とある。その「矢捨山」で見られなかったことから、急に戦意喪失。おまけに平野部では薄陽も射すが、山間部にはいと曇ってしまう不安定な天候。

明日は帰路に着かねばならず、その後、近くの「温湯（ぬるゆ）温泉（¥200は安い）」に入り、102号で弘前を目指す。連休後半となり、それほどの渋滞でもなく、弘前市内に入ることができた。弘前城の桜と人混みを見物して、初めての「東北ヒメギフの旅」は終了となった。

*1：「蝶類年刊」などによれば2000年以降、青森市内各所で分布を拡大しているようであり、安定した数が採集されている。

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町 11-27》

2011年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

| 収 入 | | 支 出 | |
|----------|---------|--------------|---------|
| 項 目 | 金額（円） | 項 目 | 金額（円） |
| 2011年度会費 | 90,000 | 会誌作成費 | 184,800 |
| 当該年度以外会費 | 18,000 | 例会費 | 1,900 |
| 会誌売上金 | 18,200 | 石川県自然史センター会費 | 3,000 |
| 郵送負担金 | 19,000 | 郵送費 | 26,730 |
| 寄付金 | 40,200 | 消耗品費 | 1,020 |
| 前年度繰越金 | 46,504 | 次年度繰越金 | 14,454 |
| 計 | 231,904 | 計 | 231,904 |

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

2010年アサギマダラ日記

松井正人

■ 5月15日 アサギマダラの調査開始

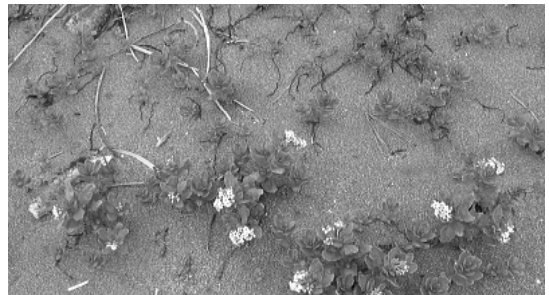
志賀町から輪島市にかけて9カ所の海岸を調査するがアサギマダラは見つからない。全般的にスナビキソウの生育が遅いように感じたが、志賀町の赤崎から鹿頭にかけては咲き誇り高貴な渋い香りが漂っていた。



スナビキソウの渋い香りが漂う赤崎の海岸

■ 5月22日 三ツ子浜から鉢ヶ崎を調査

10時から珠洲市でアサギマダラの説明会。それまでに輪島市三ツ子浜から珠洲市鉢ヶ崎にかけて14カ所の海岸を回り、アサギマダラ9♂にマーキングする。三ツ子浜は、冬の荒波で砂がごっそり削り取られ、スナビキソウはむき出しになった地下茎から発芽し、こぢんまりとした姿態で花を咲かせていた。



三ツ子浜のスナビキソウは、むき出しになった地下茎から発芽し花を咲かせていた

■ 6月5日 海岸一斉調査

金沢、宝達、輪島、大谷、小泊のグループで羽咋市から珠洲市にかけて一斉調査を実施。20人程が参加した調査だったが、結果は51頭。今年は、気温が低いためか、アサギマダラの飛来が少ない。珠洲市の観察数は年々増加してきており、今年は「めざせ千頭」を合い言葉に子供達と調査を進めているが、この調子では叶いそうもなく子供達がかawaiiそう。



珠洲市の三大飛来地の川浦海岸

■ 6月13日 海岸調査の終わり

蒸し暑いアサギ日和り。羽咋市一宮から旧門前町深見にかけて調査するが、観



珠洲市鰐崎のスナビキソウ

察できたアサギマダラは、たったの3頭。海岸は、スナビキソウの渋い香りから、いつしかスイカズラの甘い香りに代わり、ミヤコグサも今を盛りと咲いていた。

■ 6月20日 幼虫が見つからない

金沢市内でアサギマダラの幼虫を探すが見つからない。食草は、幼虫がいても良い程に成長しており、これまでの調査では、ここまで食草が伸びていると、幼虫や食痕が必ず見つかった。この時期にこの状態とすれば、今年のアサギマダラは少ないような気がする。

■ 7月24日 医王山にアサギマダラがない

7月に入ってから金沢市の医王山通いをしているが、北方稜線にアサギマダラがない。毎年、早朝に出かけるとヨツバヒヨドリに数頭～数十頭が群れているのに、今年は全く観察できず、今日になってようやく1頭を観察する。

■ 8月16日 雨の中のマーキング

晴れの予報に白山市荒谷に出かけるが、現地は小雨。そのうち止むだろうとマーキングを始めるが、雨足は強くなったり弱くなったりするものの止む気配は無い。できるだけネットを濡らさないように採集して、木に縛り付けた傘の下に入ってネットから取り出し、54頭にマーキングする。

■ 9月12日 大雨注意報にもかかわらず

大雨注意報が出ている中、晴れるかもしれないと宝達山に向かうが、予想通り猛烈な雨。10時頃に雨は止んだものの風



アサギマダラが観察されていた赤崎から鹿頭にかけての海岸も、ミヤコグサが盛りとなった



ここまで成長したツルガシワの葉からは丸い食痕がいくつも見つかるが、今年は全く見つからない



医王山では剣岳をバックにアサギマダラを撮る予定だったが主役が見つからない



左斜面のヨツバヒヨドリにアサギマダラが群れる荒谷の観察地

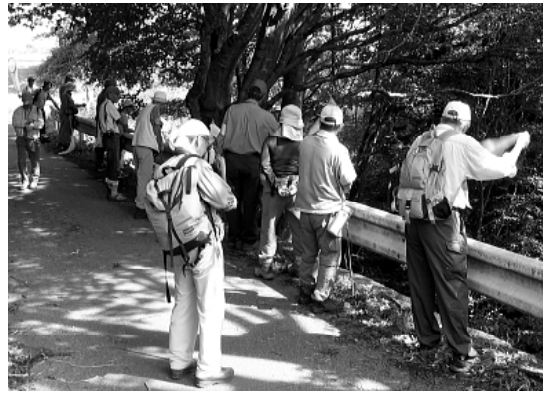
が強い。気温は23度とアサギマダラの適温だが、探しても見つからない。11時半頃には堀さん夫妻、12時頃には山下さんとマーキングメイトも集まり、頂上付近の風も収まって明るくなってきたが、アサギマダラは見つからない。

■ 9月18日 クマ騒動にもかかわず

宝達山で、前日にクマが目撃されているが、そんなことはお構いなしに出かける。頂上に着くとラジオから軽快な音楽が流れており、マーキングもそんな時代になったのかと思っていると、チリンチリンと鈴の音が近付いてきた。何のことはない、ラジオはクマ避け。クマ騒動にもかかわらず大勢の人で賑わい、この日ようやく宝達山でのマーキング数が百頭を越える。今年は9月に入っても気温が下らずアサギマダラにとっては暑過ぎる日が続きマーキング数は伸び悩んでいる。

■ 9月26日 ゴールデンメンバーにもかかわらず

朝から晴れ上がり、宝達山からは、白山、立山、剣、日本海と眺望は最高。地元のメンバーに珠洲市や七尾市、小矢部市などのメンバーが加わったゴールデンメンバーでのマーキングとなったが、冷たい風が吹き気温が上がらない。暑い日が続いていたが、23日からは平均気温が突然10度程下がってしまった。頂上付近では目撃もできず、龍宮城より標高を下げて調査し、何とか2頭にマーキング。



クマ騒動も何のその、アサギマダラが舞う谷間をのぞき込む



アサギマダラが見つかるまで葉っぱを使ってマーキングの練習



お天気になった26日、マーキングを楽しみに多くの家族が訪れた

会員の動き・しゃばの動き

■アキアカネの発生は前年の10倍

これまで、毎年除々に発生数が落ちてきていたアキアカネ、いろんな原因が述べられていたが、2011年の発生は前年の10倍に跳ね上がったらしい。原因はまだ不明。

■ブータン国王からの贈り物

11月15日、日本を訪問中のワンチュク国王夫妻からブータンシボリアゲハの雄2頭の標本が贈られた。同年8月に日本の調査隊によって約80年ぶりに再確認されたもので、今後は東京大学総合研究博物館と進化生物学研究所に保管される。

■動かないコブナナ

死んではいないが、ほとんど動かない。いつも前脚を触角に沿わせるかのように前に突き出した格好で固まっている。これから寒くなるが、冬は越せるのだろうか。

■紅頭嶼で5頭目

今は、蘭嶼島と呼ばれているらしいが、コウトウキシタが飛ぶ島は紅頭嶼と呼びたい。この島で、日本のマークアサギが最初に見つかったのは2006年、それからほぼ1年に1頭が見つかり、2011年は、屋久島でマークされたアサギが見つかった。

■標本箱の置き場が無い

リタイヤ後も採集意欲が衰えないHH氏、最近では小さなチョウにはまっている。石川県でシルビアシジミが見つかったのも標本が増える原因だが、どこでも同じように、標本箱の置ける数には限界がある。そこで、泣く泣く大きなアゲハの仲間をお嫁に出して、シジミの仲間を詰め込んでいる。

■カメ臭

カメムシの臭さは半端じゃない。はたこのものならカメ臭が発射され、悩まされ続けるが、刺激さえ与えなければ、カメ臭は臭わない。カメちゃんが出たら、ティッシュなどを近づけてそこに移動してもらい、そのまま退場してもらおうのが1番である。

■バタンでアサギマダラ調査

12月下旬、台湾紅頭嶼の南方約200kmに浮かぶバタン諸島で、アサギ探しが行われた。バタン島とサブタン島を調べたが、アサギは見つからず、紅頭嶼に見られるアサギの吸蜜植物も見当たらなかった。

■標本箱が足りない

採集意欲が減退し2008年頃からはほとんど活動せず、国内採集でお茶を濁していたHS氏だったが、年末年始はカリマンタンで過ごした。目的はもちろん採集で、獅子がようやく目覚めた。大量に採ったのは好いが、いかんせん標本箱が足りない。

■好々爺

医王山馬の背の主ことJS氏に初孫誕生。氏の昆虫活動に劇的な変化が起きそうで、長らく守ってきた馬の背の主の座も、孫のだっこに比べたら、どうでも良いらしい。

■重い図鑑はiPadに入れて

採った蝶が何なのか直ぐに調べたいが、重い図鑑を何冊も持ち運ぶのは不可能に近く、海外となるとなおさらだ。そこで、軽くて見やすいiPadに図鑑を入れれば、いつでもどこでも採った直ぐに検索できるって話、何処かで聞いたなあ。

■和歌山から香港2500kmの旅

和歌山県西山でマーキングされたアサギマダラが、高知県で一度見つかり、次は約2500km離れた香港で見つかった。日本から中国大陸への移動が確認されたのは2例目で、移動距離は今までの最長。ちなみに1例目は、日吉夫人が輪島でマーキングしたものが上海の近くで見つっている。

■がんばってます

2008年に標本1万頭を達成した輪島の日吉氏、その後も活動は鈍らず、2010年末には1万1千頭を越え、2011年末には1万2千頭を越えた。

■かなしい現実

泉の「セコイア」、二水の「ねこやなぎ」と、高校生物部の昆虫班が精力的に活動し、成果を部誌に発表していたのは遠い昔の話。現実、寂れる一方で、泉にいたるや今年の卒業式で、残る部員は1名とか。

■新年会

1月20日、金沢駅前よし久で、「石川むしの会」と合同新年会。虫が好き、いろん

な虫が採りたい、集中的に調べたいなど、若手からは積極的な抱負が聞かれたが、年寄からは、目が見えなくなってきた、虫への興味が薄れてきたと、ぼやきの声。

■ 例 会 の 記 録 ■

12月8日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、スラウェシへの撮影行に続き、ランカウィ島へキララシジミの撮影に出かけた松田氏のスライド映写会が行われた。また、井村会長は、羽化後間もないアカマダラハナムグリの生虫を持ち込み見せびらかした。

その他の話題は、医王山小学校で昆虫観察会を計画、函館から下関へ飛んだアサギ、紅頭嶼で5頭目のアサギ、紅頭嶼の次はボタンか、ブータンシボリのおみやげ、エゾゼミ類の遅鳴き記録、これが話題の「およげ!げんごろうくん」、などなど。

参加は、浅地、井村、山岸、松田、長田、浅野、福富、松井、大宮の9人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

| | |
|-----------------------------|---|
| 浅野直樹：金沢市土清水でメスグロヒョウモンのメスを目撃 | 1 |
| 大宮正太郎：白山トンビ岩でコエゾゼミの声を聞く | 1 |
| 指田春喜：2010年春季東北地方採集（観察）報告 | 2 |
| 松井正人：2010年アサギマダラ日記 | 6 |
| 編集部：会員の動き・しゃばの動き | 9 |

翔 214号

Tobu 2012年2月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

